

お客様各位

富士通エフ・オー・エム株式会社

「情報セキュリティマネジメント試験 平成 28 年度春期試験」の出題傾向分析について

日頃は、FOM 出版をご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。

先般、4月17日(日)に実施された「情報セキュリティマネジメント試験 平成 28 年度春期試験」の出題傾向を分析しましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 午前問題の出題傾向

今回の春期試験の「カテゴリ別」「問題形式別」の出題傾向は、次のとおりです。

●カテゴリ別

	大分類	中分類	出題数	出題比率
重点分野	技術要素	セキュリティ	30 問	60%
	企業と法務	法務	6 問	12%
<i>小計</i>			36 問	72%
その他の分野	コンピュータシステム	システム構成要素	1 問	2%
	技術要素	データベース	1 問	2%
		ネットワーク	2 問	4%
	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント	0 問	0%
	サービスマネジメント	サービスマネジメント	3 問	6%
		システム監査	3 問	6%
	システム戦略	システム戦略	1 問	2%
		システム企画	1 問	2%
企業と法務	企業活動	2 問	4%	
<i>小計</i>			14 問	28%
全合計			50 問	100%

●問題形式別

問題形式	出題数	出題比率
用語(用語の説明や関連する用語を選択する問題)	25 問	50%
事例(具体的な事例に基づいて解答する問題)	25 問	50%
計算(数値や計算式を求める問題)	0 問	0%
合計	50 問	100%

※なお、問題の分析はあくまでも当社独自の判断によるものです。

2. 午後問題の出題テーマ

今回の春期試験で出題された取り扱いテーマは、次のとおりです。

設問	出題テーマ	設問数
1	標的型攻撃メールの脅威と対策	9 問
2	業務委託におけるアクセス制御	10 問
3	情報セキュリティ自己点検	9 問
合計		28 問

3. 問題分析

情報セキュリティマネジメント試験は、基本情報技術者試験と同じ「レベル 2」に位置付けられているため、同等程度の難易度を想定していましたが、出題された問題は想定よりかなり易しかった印象です。

次回の試験の難易度については、今回の試験の合格率によって変動する可能性があります。今回よりも大幅に難しくなる可能性も十分に考えられるため、注意が必要です。難易度が安定するのは、来年度以降になると思われます。

【午前問題】

カテゴリ別に見ると、シラバスの「重要分野」から約 7 割、「その他の分野」から約 3 割という出題比率でした。重要分野の「セキュリティ」からは、当然ながら最多の 30 問が出題されています。この 30 問のうち、10 問は、試験主幹元の IPA(情報処理推進機構)がホームページ上に公開している「組織における内部不正防止ガイドライン※」にぴったり沿った内容で、このガイドラインを理解しておけば、確実に得点できる問題でした。このガイドラインに基づいて出題されることは IPA が明言しているので、今後もしっかりした対策が必要です。なお、ガイドラインは随時メンテナンスされているので、試験直前に最新の内容を確認するようにしましょう。

問題形式別に見ると、「用語」が 5 割、「事例」が 5 割で、「計算」はゼロという結果でした。用語の問題では、「クロスサイトスクリプティング」「クリックジャッキング」「パスワードリスト攻撃」など、サイバー攻撃の手法に関する問題が目立ちました。事例の問題では、複雑な図解を読み取ったり高度な分析を要したりするものはなく、解きやすかったと思われます。

また、各問題の難易度を、既存の他の試験区分と比較してみると、次のような内訳となりました。

難易度	問題数	出題比率
IT パスポート試験(レベル 1)相当	20 問	40%
基本情報技術者試験(レベル 2)相当	24 問	48%
応用情報技術者試験(レベル 3)相当	6 問	12%
合計	50 問	100.0%

※なお、問題の分析はあくまでも当社独自の判断によるものです。

IT パスポート試験の知識でも 4 割程度は解答できることから、レベル 2 の試験区分としては、平易だったことがわかります。

※組織における内部不正防止ガイドライン(日本語版)第 3 版

<http://www.ipa.go.jp/security/fy24/reports/insider/index.html>

<https://www.ipa.go.jp/files/000044615.pdf>

【午後問題】

組織のセキュリティ対策における「Plan(計画)」→「Do(実施)」→「Check(点検・監査)」→「Act(見直し・改善)」という PDCA サイクルの各場面から、3 つのテーマがバランスよく出題されていました。

いずれの設問も、情報セキュリティに対する基本的な理解と一般常識から、十分に解答を導き出すことが可能です。ただし、与えられる条件や考慮すべき案件が多く指示されており、問題文を読み解くのに時間がかかるため、受験者にとって時間的な負荷が大きかったと思われます。

特筆すべきは、日本年金機構の情報漏えい事件を彷彿させる事例の問題が出題されていたことです。実際に起きた事件の問題点を考察し、再発防止を図ろうとする出題側の意図が見えてきます。

今後も同様に、過去の事例をもとにした問題が出題される可能性があります。従業員の内部不正により個人情報が出た事件、従業員が SNS へ不適切な投稿をした事件など、管理体制の甘さから組織が謝罪に追い込まれた昨今の事件については、しっかり情報収集をしておきたいところです。

4. 試験動向

2015 年に起きた年金情報管理システムの情報漏えい事件で、日本年金機構や厚生労働省のセキュリティ対策の不備や管理体制の甘さが露呈したのは記憶に新しいところです。事故が発覚した時点で、的確に対応していれば、被害を最小限に食い止めることができたのに、対応を誤り、被害が拡大したと指摘されています。この事件は、サイバー空間の脅威が増しているにもかかわらず、情報セキュリティに対する正しい理解が行き届いていないことを改めて思い知るきっかけとなりました。

東京オリンピック・パラリンピックを控え、組織内の情報を守る人材の育成が急務となる中、「情報セキュリティマネジメント試験」は新設されました。また、2017 年には現行の「情報セキュリティスペシャリスト試験」の有資格者を登録制にする「情報処理安全確保支援士」という新しい国家資格も導入される予定です。

現在、国を挙げた情報セキュリティ人材の育成が急ピッチで推進されており、今後は有資格者であることが官公庁

の調達要件として指定されたり、優遇措置が取られたりすると考えられます。

今回、初めて実施された情報セキュリティマネジメント試験ですが、応募者数は 22,903 人に上り、注目の高さがうかがえます。今、最も熱い IT 資格として、受験者は今後もさらに増加すると思われます。

5. 教材ラインナップ

当社の「情報セキュリティマネジメント試験」教材のラインナップ(発売中/発売予定)は、次のとおりです。

No.	教材名	型番 価格	説明
1	短期集中！ 情報セキュリティマネジメント試験	FPT1532 1,500 円 (税抜)	情報セキュリティ管理の概要を短期間で効率的に学習するためのコンパクトガイド。 発売中。
2	情報セキュリティマネジメント試験 対策テキスト&過去問題集 平成 28 年度版(仮)	未定	シラバス(Ver1.0)にそって必要な知識を解説する教科書。平成 28 年度春期試験(1 回分)の問題&解説も収録しています。 2016 年 8 月発売予定。
3	情報セキュリティマネジメント試験 対策テキスト&過去問題集 平成 29 年度版(仮)	未定	シラバス(Ver1.0)にそって必要な知識を解説する教科書。平成 28 年度春期・秋期試験(2 回分)の問題&解説も収録しています。 2016 年 12 月発売予定。

以上